

ありがとう 金山小学校

～光り輝く121年の歴史に幕～

金山小学校のあゆみ

年代	主なできごと
明治24年 4月	桜山小学校分校として開設(児童数50名)
明治25年 7月	金山小学校として独立(児童数140余名)
昭和22年 10月	校歌制定
昭和55年 3月	仙洞岡緑の少年団結成
昭和55年 5月	全国学校林コンクール入賞
昭和56年 8月	県小学校夏期テニス大会優勝
昭和57年 10月	創立90周年記念事業大運動会
平成4年 7月	100周年記念式典
平成6年 5月～	小学校ソフトテニス県大会・九州大会・ 全国大会において個人・団体優勝
平成11年 4月	完全複式学級へ
平成26年 2月	閉校記念事業記念式典
平成26年 3月	金山小学校閉校(児童数20名)



▲学校旗を返納する鶴田敏彦校長



▲参加者全員で校歌斉唱



▲卒業写真を懐かしそうに見入る卒業生



▲閉校記念碑の除幕式



▲最後の卒業式



▲卒業生を見送る在校生たち

平成26年3月31日、学校統廃合に伴い、金山小学校が121年続いた歴史に幕を下ろし、閉校しました。

2月23日、閉校式とお別れの会が行われ、地元住民や卒業生など約320人が駆けつけました。

閉校式では児童代表の久保響平くん(6年)が「自分の母校がなくなるのは残念な気持ちでいっぱいです。しかし、今

年卒業する6年生だけでなく、後輩たちもまた、今日の閉校式に来ていただいた方々の心の中に金山小学校の思い出はいっまでも消えることはありません。これからも私たちは金山小学校の卒業生としての誇りを胸に精いっぱい頑張っていきたいと思います」と言葉を述べました。

その後、学校旗が鶴田敏彦校長から久木田弘子教育委員長に返納され、最後に全員で校歌を斉唱しました。

閉校式終了後、地元住民やPTA等で構成する「金山小学校閉校記念事業実行委員会」が関係機関と連携し、主催のお別れの会が行われました。

卒業生を代表して三浦聡雄さん(昭和32年卒)が「閉校になっても金山小学校の仲間、先輩、後輩、同級生を大切にしながら母校の在りし姿を皆の心の中に刻みこの素晴らしい学校で学んだという誇りを忘れずに共に生きていきたいと思います」とあいさつしました。

3月24日は、最後の卒業式が行われました。

鶴田敏彦校長が「皆さんは3000名を超える卒業生の中でも最後の7名です。伝統ある金山小の最後の卒業生であることを忘れないでほしいと思います。皆さんの母校への想いが強ければ強いほど、この金山小学校はいつまでも見守ってくれるはず」と式辞を述べ、卒業生が保護者や先生たちなどに感謝の言葉を、在校生に対しての励ましの言葉などを述べました。

式終了後は、最後の学級会を終え、校舎から出てきた卒業生を在校生や地元住民たちが笑顔で見送っていました。

